

区の評価及び意見(区役所地域担当)

【浪速区】 (受託者:地域環境計画研究所)

I 中間評価・年度末評価

取組実績の評価(1)

項目			ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施状況	自律的運営に向けた地域活動協議会の取組	(1)「地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	「なにわ区ラボ」、「なにわ区リサーチ」を継続的に実施することで、テーマごとの意見交換や課題抽出が可能となり、掘り下げた課題が見えてきている。	テーマを明確にすることで、地域活動に参加しなかった人や若手やマンション住民など幅広い層での議論が行え、地域活動のきっかけづくりとなっている。	テーマを拡充することも必要であるが、課題抽出、データ収集にとどまることなく、それらを活用した地域活動の実現へとつなげてもらいたい。
		(2)「つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	テーマごとの意見交換や課題抽出が可能となり、掘り下げた課題が見えてきている。	テーマを明確にすることで、地域活動に参加しなかった人や若手やマンション住民など幅広い層での議論が行え、地域活動のきっかけづくりとなっている。	実践に結びつく企画を実施されたい。
		(3)「組織運営」にかかる支援の実施状況	組織運営、会計の透明性は、ルールづくり・遵守が一定実現されている。広報は地域により達成状況が異なるので、継続した支援が必要である。	組織運営にかかる資料作成のノウハウや、会計処理にかかる会計ソフトの提供など、適切なアドバイスを実施できている。広報は、担い手の確保に苦慮している地域があるものの、「地域だより」を始めて発行した地域やブログを立ち上げた地域もあり、取り組みやすいツールやノウハウの提供が行えている。	いずれの作業も、特定の担い手に偏る地域が多いことや、継続性の観点から、担い手の拡充に努められたい。
		(4)「区独自取組」にかかる支援の実施状況	浪速区の戦災を地理情報とともに聞いたり、意見交換することで、地域の歴史や資源の発掘・普及が実現できている。	身近な地域の人から体験談を聞くことで、共感も得やすく、「世代間交流」というねらいは実現できている。	今回の事業限りとするのではなく、継続した取組や、記録の情報発信を行うことで、普及啓発・世代間交流を進められたい。

取組実績の評価(2)

項目			ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施体制		(1) 自由提案による地域支援の実施状況	まちづくりセンターが、区役所内6階の奥まった場所であること、まちライブラリーが6月からの開設であり、区民への浸透は十分でないが、地域の担い手などからの相談は頻繁に寄せられている。	まちライブラリーの認知度を高める手法や内容の充実を検討するなど、区民が足を運びやすい環境を実現してもらいたい。	まちライブラリーの認知度を高める手法や内容の充実を検討するなど、区民が足を運びやすい環境を実現してもらいたい。
		(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	地域との連絡や支援については、迅速かつ効果的に対応している。事業企画、会計処理、広報デザインなど、アドバイザー・支援員それぞれが有する専門性を発揮するとともに、センター内で共有もしていることから、スキルの高い柔軟な対応を実現している。	「地域の自律を促す支援」への体制は確立できている。「浪速区全体の課題、新たな取組促進」への取組に向けては、アドバイザー・支援員がこれまで以上に、スキルを発揮できる体制が必要である。	「地域の自律を促す支援」への体制は確立できている。「浪速区全体の課題、新たな取組促進」への取組に向けては、アドバイザー・支援員がこれまで以上に、スキルを発揮できる体制が必要である。
		(2-2) フォロー(バックアップ)体制等	情報共有会の開催や、副担当地域の設定などにより、特定の支援員に偏ることなく、担当外地域の案件についても、全員が一定対応可能な体制となっている。	効率的に情報共有・伝達を行っており、十分なフォロー体制を確立している。	副担当者と地域との関係作りは拡充の余地があるものの、引き続き現行の体制・手法を継続されたい。
		(3) 区との連携	情報共有会だけでなく、日常的に相談・打ち合わせを行えていることから、地域への支援がスムーズである。共有内容についても、地域ごとの方向性や手法などを細やかに相談できていることから、効果的な支援が行えている。	地協協運営委員会の案件や、打ち合わせ内容に応じて、まちづくりセンターと区職員の参加を分担し、柔軟な支援が行えている。	引き続き共有・連絡体制を継続されたい。

取組効果の評価		項目		ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析に対する評価	ウ 今後の改善策等に対する評価
目標等の達成状況	(1)アンケート調査 ・適切であると感じている：60%以上 ・自律的な地域運営に取り組んでいる：50%以上			本業務における具体的な成果目標値をクリアしている。	「法人格の取得」、「地域公共人材の活用」については、地域ニーズに大きく左右されるところであるが、「他の活動主体との連携」、「活動の担い手の拡大」は早急に改善されたい。	新事業の実現がなされれば改善される期待もあるが、新事業の企画・提案・支援を行うのではなく、それらの必要性や波及効果など、アプローチから丁寧に支援することで、地域の自主性や継続性につなげられたい。
	(2)自律的運営に向けた地域活動協議会の取組	(2-1)「地域課題への取組」達成状況		分野ごとの課題やニーズを把握し、その解決に向けた事業の取組を支援できている。	継続的な課題に対する取組は、長年取り組んできたノウハウや、担い手の固定化もあり、柔軟な支援に苦慮するが、若手世代の情報や、他地域の事例などを共有できうる支援に取り組まれたい。	継続的な課題に対する取組は、長年取り組んできたノウハウや、担い手の固定化もあり、柔軟な支援が困難であるが、若手世代の情報や、他地域の事例などを共有できうる支援に取り組まれたい。
		(2-2)「つながりの拡充」の達成状況		構成団体間や地活協同士の意見交換や連携した事業が生まれるなど、新たな動きに対する支援が効果的に行われている。	年齢層の高い担い手は、変化を望まないことも多く、柔軟な支援に苦慮するが、地域活動を行っている若手や、興味のあるマンション住民などが存在していることがこの間の支援で認識できていることから、継続した掘り起こしと、世代間ギャップを埋める支援に取り組まれたい。	年齢層の高い担い手は、変化を望まないことも多く、柔軟な支援に苦慮するが、地域活動を行っている若手や、興味のあるマンション住民などが存在していることがこの間の支援で認識できていることから、継続した掘り起こしと、世代間ギャップを埋める支援に取り組まれたい。
		(2-3)「組織運営」の達成状況		総体的に一定レベルに達しており、支援内容の効果は表れている。	運営や会計の担い手のスキルアップ、理解度はこの間の支援で着実に成果を上げている。 その成果を地活協内での共有や、新たな担い手の拡充が求められる。	事業計画の検討に際しても、事業担当者などの一部の担い手の発案に偏ることなく、多くの意見、自由な発想が活かされる場となる支援を行われたい。
		(2-4)「区独自取組」の達成状況		新たな取組であり、地域の歴史や資源の発掘・普及、世代間交流に効果があつた。	今回の事業限りとするのではなく、継続した取組や、記録の情報発信を行うことで、普及啓発・世代間交流を進められたい。	今回の事業限りとするのではなく、継続した取組や、記録の情報発信を行うことで、普及啓発・世代間交流を進められたい。
	(3)その他の効果のあった内容			これまであまり関心のなかった「民間助成金」という情報発信することで、自主財源確保の意識付けが図られた。	地活協一括補助金制度への対応や、会計処理のノウハウが蓄積されていくと同時に、民間助成金へのノウハウも支援することで応募実務も可能になると思われるので、継続して実施されたい。	地活協一括補助金制度への対応や、会計処理のノウハウが蓄積されていくと同時に、民間助成金へのノウハウも支援することで応募実務も可能になると思われるので、継続して実施されたい。

全体的な評価

全体的な評価	組織運営（適正な運営、会計事務の適正、広報活動）は、まちづくりセンターのノウハウを発揮した支援により、着実に成果を上げている。その成果をいかに組織内で拡充し、継続的に安定した運営体制を構築できるかが今後の課題である。この間の、「なにわ区ラボ」、「なにわ区ラブ」などの取組みにより、これまで地域との接点が薄かった若年層やマンション住民から、地域活動を取り組んでいたり、関心のある人材を発掘でき、又、地域協間の連携による新たな事業も生まれたことは、「新たな住民参加の促進」、「連携・協働」を実現できている。 今後、これらの取組みを継続しつつ、新たな人材の発想や情報を有効に活かすことのできる運営支援や、地活協間や他団体との連携が拡充される取組み支援を期待する。
--------	---